

スマートシティの実現に向けた技術提案書

提出年月日： 2021 年 10 月 18 日

提案団体名： ピグリフ(株式会社リコー)

○提案内容

技術の概要・実績等		技術の分野
<p>(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください</p> <p>リアルタイムに会話をビジュアライズするシステム(ピグリフ)を開発しているチームピグリフです。私たちは、しゃべったことをイラストに変換することで、世代や経験や知識などのバックグラウンドが異なる人たちが、言葉の壁による“伝わらない”課題を解決し、共創するための環境づくりをサポートします。</p> <p>活用方法としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでのスマートシティ企画会議の際にイラストを用いたイメージの共通認識化 ・市民対話の場での対話の様子のグラフィックレコーディング ・言葉が伝わらない多国籍の住民に対する防災指導 <p>といった場面を想定しております。</p>  <p>実際に自治体主催の市民参加型のスマートシティ構想オンラインイベントで活用していただきました。</p> <p>提案技術(ピグリフ)の動作イメージを添付させていただきます。 https://youtu.be/fJZl3dWgei0</p>		<p>オ: 活性化 ウ: 防災 シ: その他</p>
解決する課題のイメージ		課題の分類
<p><市民対話の場での対話の様子のグラフィックレコーディング> 実際のスマートシティ構想市民対話での価値検証結果から、スマートシティ構想対話の場で活用できると考えております。</p> <p>参加した市民の方々はそれぞれ違う立場から日常で感じる課題を持ち寄り、対話を通じて、どのような課題をどういう技術で解決できるかを検討する会で、我々のシステムを活用して市民対話の様子をグラフィックレコーディングし、目指したい市の未来の様子を未来スケッチにするサポートをさせていただきました。</p> <p>対話を可視化したことで、参加者一人一人の想いを見える化し、自分の発言を認めてもらえたといった声や、他者の想いを理解できたことで、共創してより良い市にしていきたいという気持ちになったという声をいただくことができました。</p> <p>また、主催者からも、特にオンラインで収束しにくい議論を1つのキャンバスにまとめ、対話グループごとのアイデアとしてそれぞれのグループが発表できたことで、市のスマートシティ構想に反映しやすいといった喜びの声をいただきました。</p> <p>この技術を活用して、住民が自ら課題について考え、他者を理解し合い、住民同士で住みやすい街を共に創り上げる手助けができるのではと考えております。</p>		<p>7: その他</p>
<p>(3) その他</p> <p>株式会社リコーの中で、社内スタートアップの活動をしているチームです。 現在、いろいろな場所で実証検証をしながら本システムの開発を進めています。</p> <p>もし少しでもご興味いただけましたら、意見交換させていただければ幸いです。 渡辺恵里(eri.watanabe@jp.ricoh.com)</p>		

※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
TRIBUS推進室	渡辺恵里	050-3817-3902	eri.watanabe@jp.ricoh.com